

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4691700019
法人名	医療法人 松風会
事業所名	グループホーム 松風の里
訪問調査日	平成 20 年 8 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4691700019		
法人名	医療法人 松風会		
事業所名	松風の里		
所在地 (電話番号)	鹿児島県志布志市志布志町安楽5 2番地3 (電話) 099 - 472 - 0911		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年8月5日	評価確定日	平成20年9月11日

【情報提供票より】20年7月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤	11 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	5 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月8日現在)

利用者人数	18	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松下医院 ・ 有明病院 ・ 西国領歯科医院
---------	-----------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

志布志市の中心部に位置し、40年前に建てられた5階建ての病院の中に2、3階をリフォームして開設したのがグループホーム松風の里である。地元のかかりつけ医として地域医療に貢献してきた病院が運営母体であり、利用者も職員も顔馴染みの方が多く、開設して2年目であるにも関わらず、すでに6人の看取りを行った実績がある。職員も看護師が多く緊急時にも24時間支援体制が整っており、利用者と家族にとって安心できるホームである。職員は利用者が「楽しく穏やかに暮らせるように」を心がけている。また、リハビリにも積極的に取り組んでおり、下肢機能訓練や脳活性の為にグループワークなど続けており、その経過は良き方に向いている。ホームの入り口に病院が建てられた時に植えられたワシントンパームが地に深く根を張り、空に高くまっすぐ伸びている。松風の里も益々地域に根ざし、利用者と家族を温かく包むホームになることを期待します。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は、ミーティングで伝えられ地域密着型サービスとしての理念について、新しい理念を全職員で話し合い作り上げている。災害対策については、運営推進会議で評価結果について報告し、会議に出席された地域の方々にはホームの中を見てもらい利用者との顔合わせを行い、災害時の応援体制を整えるためにも地域の連絡網を作る案が出され作成された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が評価の意義を説明し、職員は自己評価を分担して一ヶ月かけて評価し管理者が取りまとめている。去年よりケアに対して出来ていること、まだ改善が必要なことなどがわかりケアを振り返る良き機会としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地区自治会長、婦人会長、民生委員、家族代表、市職員、管理者などが参加して行われている。事業所の近況報告や認知症についての勉強会などを行っている。外部評価の結果について報告し、災害対策についての意見を求めたところ、地域の方から協力を得る為には、地域の連絡網を作ったらどうかという意見があり、直ちに案を作成しているところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見や苦情については、面会時や担当者会議に出席して頂いた時に家族からの意見や苦情を伺う。その意見や苦情については、全職員が共有し運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	病院として40年地域に貢献してきており地域との交流も盛んに行われている。地域の行事、運動会やお月見会、餅つき大会などに参加したり、早朝のゴミ拾いに利用者と共に参加したりしている。また、野菜を頂いたり、家庭菜園の肥料を持ってきて教えてくれたりと交流している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニットごとの理念を管理者と職員で話し合って作っており、昨年の外部評価の結果を受けて、地域密着型に対応した理念を全員で話し合い作りあげている。		開設時には各ユニット、利用者の機能レベルが違っていたので別々の理念を作ったが、今はレベルも変わらなくなっている。地域密着型の理念一つにまとめていくことを希望します。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに掲示しており、毎朝唱和している。「穏やかで明るく、安心して過ごせるように」楽しい行事を計画したり、職員とのコーヒータ임을設けてゆっくりと語らえるような時を過ごすことで安心してもらっている。		話し合って作られた地域密着型の理念一つに絞り、全職員に理念の浸透と実践が行えるように希望します。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、お月見会や運動会、餅つき大会などに参加し地域の早朝ゴミ拾いに利用者と共に参加している。40年前から地域医療に貢献してきたので、地域の方が協力してくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果については、全職員に伝えられ理念について全職員で話し合って作り上げている。今回の自己評価については、一ヶ月をかけた職員が分担して評価を行いそれを管理者がまとめ上げている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会長、民生委員、家族代表、市職員、管理者などが出席し開催されている。事業所の近況報告や認知症についての勉強会などが行われている。昨年の評価結果について報告し、災害対策について地域の協力をすぐにもらえるように、地域の連絡網を作成したらどうかという意見が上がり、案を作成中である。		

鹿児島県 グループホーム松風の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらっている。時々、介護保険課の窓口に出かけ指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月ごとに近況報告として写真を渡している。面会時には経過記録をみてもらい日頃の様子を知ってもらっており、家族も感想を書くこともある。金銭出納帳にもサインをもらっている。遠方の家族にはコピーして送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は作られてはいないが、担当者会議に参加してもらっているため、意見や苦情を聞く機会となっている。出された意見や苦情については、申し送りノートで共有し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動は少なく、もし急な場合でもフォローできる人数が十分確保されており、利用者のダメージにならないように配慮している。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修は職員が全員受けることができるように、調整している。研修後は報告書を提出し、月一回のカンファレンスで研修の報告会を行って職員が共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、主に管理者が実践事例検討会などに参加している。職員同士の交流については、これから検討していくところである。		グループホーム協議会における勉強会には参加する機会も多くあり、管理者との交流も行われているが、職員同士の交流を行うことでお互いの良さを学びあい、サービスの質を向上させていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所ができるようになっている。在宅から入所される人は見学に来てもらい、昼食を一緒に食べながら話をしたりして、馴染みながら安心して入所できるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>アセスメントで生活歴を把握しており、得意分野の団子の作り方や、巻き寿司を作ったり、ブレンダーに作っている家庭菜園の肥料の仕方を教えて貰ったりしている。その時は感謝の言葉を伝え、支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、会話のできる利用者からは直接意向を伺い、意思の伝達が難しい利用者については、経過記録から家族の意向を把握したり、表情・身体の様子から察するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月一回スタッフ会議でカンファレンスを行い、記録は担当者が作成し職員の意見も反映され、担当者会議に出席した家族の意見や医師の指示や意見も介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月に一度をめぐりに見直しを行っている。変化のあった利用者についてはその都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして健康管理を行い、入院の回避として往診を行っている。家族の要望があれば通院介助も行っている。また、ふるさと訪問として墓参りの支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。職員が受診に付き添った場合には、結果を電話にて報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にターミナルケアについて十分説明し、話し合い納得した上で同意書を頂いている。すでに6人の看取りを行っており、利用者の思いを尊重し、職員、主治医、看護師との連携がなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職と退職時に秘密保持に関する契約をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような声かけ、態度については十分注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やペースに合わせた支援を行っている。晩酌をする人、喫煙する人には灰皿に入れるまで見守り、散歩、ある程度の時間は決めているが、規則正しい生活を送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は自分の力量に応じて手伝いを行っている。職員と一緒に台所に立って野菜を切ったり、盛り付けやお箸を並べる。下膳は、車イスの方でも膝にお皿を乗せて運んでいたり、隣に座る利用者の食事介助を手伝ったり、積極的に自分のできることを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上入っているが、汗をかいたなど必要な時はいつでも入ることができる。拒む人については、職員同士が連携しながら声かけを工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	墓参り、ドライブ、海づり、サンフラワーへの乗船など、楽しみごとの場面作りをしている。また、それぞれの役割もあり掃除、台ふき、ひまわりへの水かけ、野菜を取りに行くことなど、生活歴を活かした役割となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はベランダにテーブルを出してお茶をしたり、散歩に行ったり、スイカの収穫やゴーヤちぎりに行ったり、ふるさと訪問ということで墓参りに行ったりと戸外にでられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入り口にだけセンサーがついてる。外出傾向にある利用者については把握しており、2階の階段から降りて来るので、後ろからついて行き見守るようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年3回行われており、1回は消防署立会いの下、夜間想定避難訓練を行っている。また、エレベーターの搬出訓練も行われている。断水の経験があるため、水、エンシュアの備蓄をしている。		運営推進会議で災害時における地域の協力体制をお願いしたところ、地域で協力できる方々の連絡網を作ったらどうかという意見があがり、取り組み中である。また、地震時の避難についても消防署からの指導を受けられることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行っている。自力の水分補給が困難な利用者については、お茶ゼリーを作っている。調理師に栄養のバランスを見てもらい、定期的に体重測定を行い健康チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病院をリフォームしている為、すべてがバリアフリーでなく快適とは言えないが、利用者の機能回復を助ける工夫が見られる。リビングには畳みを敷いたり、季節の壁飾りが掛けられたり、廊下には日々の様子を写した写真が飾られ、ベランダ前に置かれたソファでは日光浴しながらおしゃべりする利用者の姿が見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は畳みを敷いて布団で寝起きしている方がいたり、ベット、持ち込みのタンス、イスが置かれ、面会に来られた時に撮った写真が飾られたりしている。		